

献辞

新井恵雄先生におかれては、本年3月末日をもって本学教授を定年退職される。それを記念して、本『ヨーロッパ文化研究』第23集を先生に捧げ、私たちの先生に対する感謝の気持ちの一端とする。

先生は、1965年4月文芸学部専任講師として着任し、68年助教授、76年教授に昇任され、39年の長きにわたり成城大学一筋に奉職された。

先生のご専門は、言うまでもなく哲学であるが、特にいわゆる実存哲学、ヤスパース、ハイデッガーを中心とする現代ドイツ哲学である。これは人間研究を中心にした哲学で、先生の人間に対する熱い思いを持ったお人柄をあらわしているものと拝察される。この分野の著書、論文、翻訳を数多く発表されておられるが、特に『ハイデッガー』（清水書院、1970）は今なお入門書として人気が高い。また、近著『環境問題の諸相』（宮沢英次と共編著、理工図書、1998）は、現代の人間の在り方を問う先生の思想を表した書物である。

教育においては、先生は哲学研究、ドイツ哲学特殊研究等を講じられたが、学生たちに対する教えは時に熱を帯び、授業時間を超えることもしばしばあったと聞く。そして、先生をお慕いする多くの学部生、大学院生を育てられた。

大学運営においては、学部一般教育主任、ヨーロッパ文化学科主任、大学院ヨーロッパ文化専攻主任を歴任された。ヨーロッパ文化学科創設以来の教務関係の諸事項の成立経緯に関する知識については、今日先生の右に出る者はいない。先生が去られた後を思うと、心もとない思いにかられる。

先生のご趣味は多方面にわたる。私が初めて先生と対面したのは碁盤を挟んでのことであった。あの当時は成城学園において囲碁が盛んで、「陣屋」で全学園の大会が開催され、決勝戦で先生とお手合わせ願ったのは良い思い出として残る。スポーツはスキー、野球、水泳と何でもこなすとお聞きする。昨今は卓球にこってられるが、これは奥様である元世界チャ

ンピオン、中山教子女史の影響・指導によるものと拝察される。一番の趣味と思われるのは茶道（それにともなう陶芸・竹芸）で、宗匠として活動される。過日、山梨の私の実家の解体のうちに、煤竹、虫食い竹を求めて遠路おいでくださったが、その熱意には感服した。先生がもくもくと茶杓を削る姿が目につかぶ。

先生のこれまでの生活は学問と趣味で統一されており、かつての良き時代の学者の姿を彷彿とさせる。そのような先生をお送りするのは、一つの時代の終焉を感じさせる。今後はお体を大切にされ、たまにはヨーロッパ文化学科をお訪ねくださり、ご意見をたまわるようお願いする次第である。

2004年3月

一之瀬 正興

昨年は西節夫教授を、今年是新井恵雄教授をお送りしたが、その後任のめどはたたない。大学は厳しい時代に入ったと言われるが、ヨーロッパ文化学科も、教育・研究の面で我慢の時にある。お忙しい時期に、新井先生の退職記念号に玉稿をお寄せ下さった先生方に感謝します。(I)

平成 16 年 3 月 25 日印刷

平成 16 年 3 月 31 日発行

発行者 吉 原 健 一 郎

発行所 成城大学大学院文学研究科

ヨーロッパ文化研究 第23集

東京都世田谷区成城 6-1-20

(電) 3482—9068 (ダイヤルイン) (郵) 157—8511

製 作 株式会社 欧友社

東京都新宿区新小川町 9-21

(電) 3260—6046 (郵) 162—0814
